



福祉の里づくり

白鷹町長 紺野貞郎

二十一世紀を展望する時、少子化、高齢化、核家族化が一段と進み、保健医療福祉の充実が一層強く求められる時代であります。

我が国は今、百才以上の方が六千人を超える長寿国となり、やがて八十才以上の方が一千万人の時代がやってくるといわれ、しかもその四分の一はボケ老人になるといわれております。それに対して、若い世代の多くは親の面倒は見たくないと言っている今日、福祉施設の整備とマンパワーの確保は不可欠のものであります。

新ゴールドプランの実現に向けて、各市町がその対策におかれておりますが、白鷹町も一元化を図りながら、ハード・ソフト両面にわたる整備計画を立てながら具現化に向けて努力しているところであります。

現代の世相を見る時、政治も経済も社会も不安定であり、変り目の早い時代であります。それに国民総ストレスの時代ともいわれ、特に大都市のビジネスマンの多くは、ストレスが高じて精神的・肉体的な障害を感じているといわれ、

そのカウンセリングに当たる精神対話士が大繁盛という全く異常な時代であります。そして彼等の多くは、環境の良い農山村に逃げ出して来ております。

二十一世紀はまさに地方の時代であると確信しております。

それだけに責任の重大さを感じているものであり、安心して住める快適な地域環境を造りながら、健康と福祉の里づくりに取り組む所存であります。

又、福祉の町づくりには施設の充実もさることながら、入所者の身になって世話に当たる職員員の温かい心づかいがより大切であります。更に、地域の皆さんのご協力もお願い申し上げます。一丸となって真の福祉の里づくりに努力しなければなりません。

関係者各位の今日までのご苦勞に感謝し、今後一層の充実発展を望むものであります。



余暇活動を実らせて

須貝 栄五郎

私は自力で車椅子操作ができるため、日中は離床し、ほとんどの行事を楽しんでいます。自由時間は、他の入所者と輪投げをしたり、手芸やミニ盆栽作りに励んでいます。

入所して四年目の今年、置賜輪投げ大会に参加し、余暇活動の成果を発揮して来ました。大会に先立ち壮行会の席上、諸先輩選手方と共に「伝統ある白光園の名を汚さないように、力を合わせて頑張ってください。」と抱負を語り、試合中は応援の方々に応えたいと懸命に頑張りました。強豪を相手に勝ち進み、団体優勝を遂げることができました。

意気揚々凱旋し、たくさんの方に出迎えていただき大変嬉しい思いをいたしました。これからも、何かに取り組む自分を愛し、前向きで楽しい人生を送りたいと思っております。



入所者の声

観音様に導かれて

斉藤 豊子

昭和五十八年に南陽市から入所しました。その頃の私は、病気のため自暴自棄に振舞い、職員さんを困らせ、ご迷惑のかけ通しでした。

長いこと離床に拒絶的であった私は、昨年九月、ある寮父さんに憩いの広場の白寿観音参りに誘われました。その神々しいお姿に驚いてみると、鮎貝にも立派な観音様があると教えていただき、是非お参りに行きたいと心が動いたのです。それから離床に励んで身体を慣らし、この春ドライブに参加して、念願を果たしました。

離床するようになってからの私は、自分でも驚くほど変わりました。友達もでき、テレビばかりの生活から外に目を向け、明るい毎日を送っています。

入所して思うこと

樋口 文

待ちに待った白光園に、やっと入所することができました。職員の方々は、時にはやさしく時には厳しく、家族のように接してくれます。入所前は、体が全然動かさず外へ出ることもありませんでした。入所して間もなく県民の森ドライブに連れて行ってもらった嬉しさは、二年経った今でも忘れられません。

素晴らしい食事、健康管理、リハビリ訓練などのお陰で、今では車椅子も自力操作できるようになりました。

感謝する心を忘れず、毎日楽しく生きて行きたいと思っております。